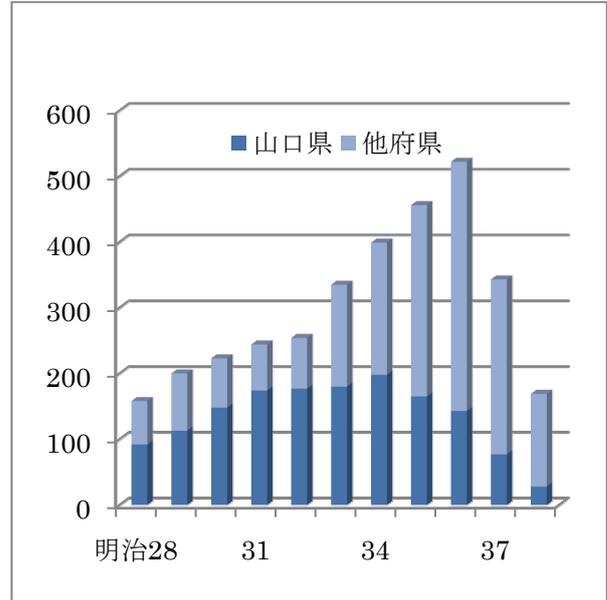


旧旧山高の終局

統制された入学制度

明治30年頃から全国の高等学校入学志願者が急増し、文部省は大学の収容力を勘案して各高等学校の入学制度に統制を加えるようになった。そのため、旧旧山高も県内学生の優先入学特例の存続が困難になった。

更に明治35(1902)年からは全国一律の共通選抜試験が実施され、合格者の志望と試験の成績によって入学する高校が決められたので、地元の子弟が旧旧山高へ入学する自由を奪われた。発足時に過半数を超えていた県内出身者は、明治37年には20%不足となっていた。



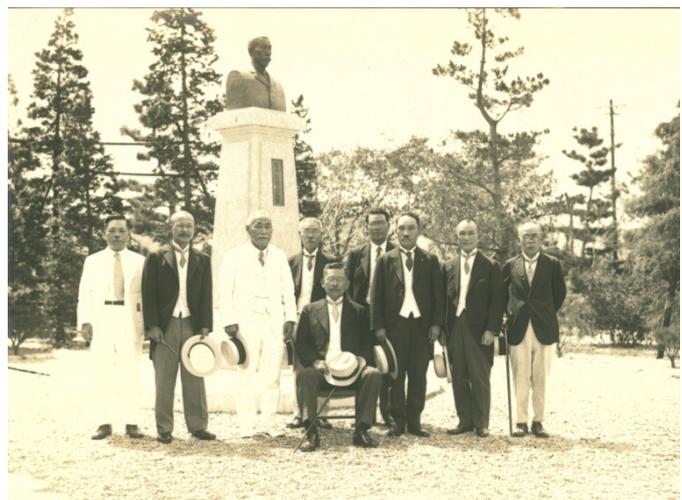
学年始めにおける全校生徒の出身
『山口高等商業学校沿革史』より数字を基に作成

防長教育会の財政問題

明治30年以降、入学者の増加と物価高騰により防長教育会は経済的負担に耐えられなくなった。また、設立の主旨から県内の子弟に対して優先入学、授業料半減等の優遇措置をしてきたが、それらは次第に時代にあわなくなり、将来計画について苦慮せざるをえなくなった。これらのことが主な原因となって紆余曲折の末、明治38年、経費をすべて国庫に移管した。

同年7月最後の卒業式を行い、山口高等中学校から繋がる旧旧山高は19年にわたる歴史に終わりを告げた。その間の卒業生は873人。

この後は官立山口高等商業学校として引き継がれることとなる。



山口高等中学校時代を含めて3度校長を務めた
河内信朝先生を讃え、大正9年に銅像が建てられた。